開催地　南国会場
1　班

見出し	地震で心配なこと、困ること				対策	誰が			いつ		
						自分	地域	行政	今から	その時	被災後
避難場所の妥当性	指示されている避難場所が使えない	避難場所が海の近くにあるのはなんとなく不安である	避難場所がそこでいいのか 検討の余地がある	津波が川を上がってきて逃げ場がなくなる	・避難場所　メインとサブを用意する						
	夜間の避難場所が開いているのか不安だ	月見山の崩壊（付近に避難場所がある）	宿泊型避難場所低地にあり	避難する場所が分からない							
	避難するのに川を渡らんといけないけど橋が壊れそう	津波による避難経路の破壊・不通									
津波・水害を防ぐハード未整備	水門を確実に行けるのか 責任者が確保できる？	津波による防波堤の崩壊 既に崩壊しつつある現状	河川の氾濫	津波による家屋の倒壊、浸水	—						
危機意識が少なく情報不足	心がけをしつこくテレビなどで流し続けてほしい	的確な情報がほしい	町中なので津波で死ぬとは思えないことが油断	通信の断絶 緊急連絡ができない	—						
	浸水スピードのイメージが持てない										
家屋の倒壊	もし夜にきたらうまく逃げられるか心配だ	家が倒れて死者、ケガ人がでる	家屋の倒壊 その後の対応をどうするか	火災が発生する（同時に多発の恐れがある）	・避難グッズを配布してほしい ・期限のあるグッズのメンテナンスが難しい ・賞味期限付のものは自分で ・靴を準備しておく						
	ブロック塀の倒壊、ガラスの散乱	電信柱の倒壊	古い家で生活する家族が居るので家がつぶれそう								
自主防災組織のあり方	自主防災組織の方向づけ	各地域の地形に合わせて指導してほしい	訓練に参加したいが一般人参加型の催しがない	高齢者の救護	・リーダーを育てる ・勉強会を自主組織で開く ・規模は大きすぎはよくない ・自治会費に防災費を含める ・日常の組織の活性を通じ、非常システムに ・地域イベント（祭り等）→防災組織へ ・個人情報は地域で持つことは可能		○	○			
	年寄りや小さな子供がいるので全員は助けられない	隣家等を助けたいが、日頃の接触が少ない	地区に老人が多い	高齢者の避難							
	逃げる途中、ケガ人がいたらどうしよう										